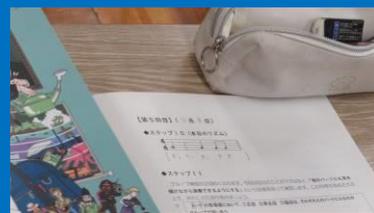


北海道教育委員会「S-TEAM 教育推進事業」
令和5年度（2023年度）授業改善セミナー

全道・音楽 実施報告



令和5年（2023年）11月8日（水）、石狩翔陽高等学校を会場に「音楽科における探究的な学びについて」及び「音楽科におけるICT（一人一台端末）を活用した効果的な学習指導」をテーマとして芸術科・音楽の授業改善セミナーを開催しました。全道からオンラインを含め41名の参加がありました。本講座の実施内容等を紹介しますので、授業改善の参考として御活用いただければと思います。

実施状況

【研究授業】北海道石狩翔陽高等学校 海野 雅 教諭

「音楽科における探究的な学び」をテーマに「色々なリズムに親しみ、リズムアンサンブルに挑戦しよう」と題し、1年生を対象とした音楽Ⅰの授業を実施しました。学習指導要領のA表現(2)器楽を取り扱った内容で、「クラッピング カルテット第1番（作曲：長谷部匡俊）」を演奏するなどの学習活動が展開されました。

授業は、毎時間導入時に実施しているリズム活動から始まり、授業者と学習者が音や音楽によるコミュニケーションの中で学習が進んでいく様子が見受けられました。〔共通事項〕のなかでもリズム、テクスチャといった「音楽を形づくっている要素」を手がかりとして、アンサンブル表現を工夫する場面では、授業者から「それぞれの場面の主役を考えよう」という発問を行いました。生徒が4つのパートのうち、どのパートが演奏表現の中心となるのかについて思考・判断し、音の大きさを変化させるといった具体的な考えが示され、グループで演奏表現を工夫する様子があるなど、主体的、対話的で深い学びが実現された授業となりました。

授業後に行った研究協議では、「ワークシートが工夫されており、読譜の指導が表現に結びつく授業であった」、「個々の生徒の表現意図の違いを共有し、掘り下げるとより深い表現につながる」等の意見があり、授業改善の方策等について活発な議論が行われました。



[学習指導案リンク](#) QRコード



[ワークシートリンク](#) QRコード



【実践発表】北海道倶知安高等学校 瀬尾 武嗣 教諭

午後は、「音楽科におけるICT(一人一台端末)を活用した学習指導の実践」をテーマに、実践発表をいただきました。学習指導要領のA表現(1)歌唱、(2)器楽、(3)創作、B鑑賞の4領域において、それぞれどのようにICTを活用しているのか、日頃の授業の様子を交えながら発表いただきました。

実践を通じての成果として、①生徒の個別最適な学びが実現した、②学習状況の把握が以前よりも容易になり生徒理解が深まった、③協働的な学びの場面において思考・判断したり、表現する力が高まった、等の成果が報告され、参加者の関心も高く、多くの質問が寄せられました。



【研究協議】「音楽科における探究的な学び及びICTを活用した効果的な学習指導」

実践発表に続き、会場を4グループ、オンラインを3グループに分け、標題のテーマに基づいた研究協議を実施しました。若手教員がベテラン教員にICTの活用方法について情報提供を行う等、



活発な意見交換がされる中、「音楽の授業は従来から探究的であり、ICTをうまく取り入れ、生徒が意欲的に取り組めるような環境を作ることが重要」、「探究的な学びやICTの活用を通じて、生徒が実感をもって音楽に対する理解や感性を深めていくことができるのではないか」等の意見が出され、参加者にとって有意義な協議となりました。

セミナー参加者の声

【参加者の声】

- 探究的な学習や主体的、対話的な学びを深めるためのヒントがたくさん得られ、有意義だった。
- 研究授業では、生徒の活発な活動の様子に感動した。意欲を喚起させたり、達成感を感じさせたりする授業の組み立てが勉強になった。研究協議については、課題解決の議論を深めるための時間がもう少しほしかった。
- OBYODによる端末の活用に課題を感じていたので、他校の様々な実践を聞いて勉強になった。自校でも実践してみようと思う。
- 全道の先生方が一堂に会し、日頃の実践の課題や成果等を共有する貴重な機会だと感じている。来年度以降の授業改善セミナーも楽しみにしている。
- 事前に各校での実践における課題についてアンケートを取って、それを共有していただくと、もっといろんな情報が得られてよいのではないかと感じた。

【アンケートの結果 (一部)】

